

令和 5 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2799300237		
法人名	社会福祉法人 ichi		
事業所名	グループホームあおぞら		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府大阪狭山市山本東7の1		
自己評価作成日	令和5年11月20日	評価結果市町村受理日	令和6年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・色々な縛りを除いて出来るだけ自由にその人らしい生活を維持して頂いている。・常に高齢者のみではなく職員の子供達も一諸に関われる様な体勢をとっている。・認知症が重度であっても関わりで改善できる事を実践している。・看取りに関してはスタッフ全員がその重要性を理解し関わっている。・市町村、他事業所と連携をとり認知症啓発運動に力を入れている。

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

[https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JieyosyoCd=2779300413-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JieyosyoCd=2779300413-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和5年12月9日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる居場所作りのために設立されたグループホームです。閑静な住宅街に建てられ、玄関ポーチには四季折々の花が咲く花壇があり、利用者や訪問者だけでなく道行く人々を楽しませてくれています。ホーム内は明るく家庭的で掃除が行き届いています。法人名「ichi」の名前には「最期の1%が幸せならば、その人の人生は幸せなものになる」との思いが込められています。ホームでの看取りも実施し、職員は看取りケアの中での貴重な学びを日常のケアに活かしています。地域との交流も積極的に行い、近隣の人たちが花や果物を差し入れてくれたり、ホームの餅つきの時は近隣に餅を配るなど、馴染みの関係が築かれています。また、認知症サポーター講座や学校での寸劇を交えた出前講座には講師として出向き、地域での認知症の啓蒙活動にも力を入れています。管理者は「スタッフが自分の仕事に誇りをもてるケアがうちの自慢」と語ります。職員が管理者に敬意を払い、管理者が職員に感謝する職場環境の下で、職員が支える利用者の暮らしは、明るく穏やかな雰囲気になっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>								
1			(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ出来ている。</li> <li>・風通しの良いオープンなホームであるよう積極的に地域と関わっている。</li> </ul>	令和5年10月、社会福祉法人となりました。法人名「ichi」には「最期の1%が幸せならば、その人の人生は幸せなものになる」との思いが込められています。管理者は職員にその1%に関わる大事な仕事だと伝えていきます。社会福祉法人化を機会に、新しい理念をみんなで考え作り上げる予定です。	みんなで考え作られた理念が職員に浸透し実践され、利用者の豊かな暮らしに繋がるのが期待されます。	
2			(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ出来ている。</li> <li>・コロナも5類になった事により、積極的に感染対策をし外出する様になり、散歩や近くの飲食店で地域の人との関わりを多く持っている。立地が住宅地、生活道路に面している所は恵まれている。</li> </ul>	地域との交流は積極的に行い、馴染みの関係が築かれています。花や果物を持った近所の方の訪問を受けたり、年末の餅つきでは、利用者職員で近所に餅を配りに行ったりしています。地域の方が披露する、「伊勢神楽」を利用者は喜び、「有り難い」と手を合わせる姿が見られます。認知症サポーター講座の講師や学校での寸劇を交えた出前講座等、認知症の啓蒙活動にも力を入れています。日常的になっている散歩の途中でも顔なじみの挨拶が交わされています。		
3				○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症啓発運動を課せられている事は十分理解しているので要望があれば講座等に良く出向いている。</li> </ul>			
4			(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2ヶ月に1度の運営推進会議を開催。行政・地域の方の同席をお願いし、家族様と共に意見を頂戴し、サービスの向上に活かしている。</li> </ul>	家族、民生委員、介護相談員、市の高齢介護グループ又は地域包括支援センター職員、他のグループホーム管理者等の出席で会議を開催しています。会議では、ホームの活動、行事予定、ヒヤリハット・事故報告、身体拘束委員会等の報告をして、委員からの意見や助言をホームの運営に活かしています。家族により多く参加してもらうために、会議のあり方を検討していく予定です。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・常に市町村とは密に連携を取っており、特に地域包括支援センターと協力して認知症サポーター養成講座に出向いている。(小学校、病院、自治会等)また、大阪介護者家族の会長をしており(管理者)家族のサポートもしている。	何か困りごとがあれば、いつでも市に相談できる関係です。コロナ禍の時は、保健所や大阪府感染センターの指導と激励に助けられたと管理者は感謝しています。地域包括支援センターと連携をとり、認知症サポーター講座の講師としても積極的に出向いています。介護相談員の訪問もあります。管理者は、介護者家族の会の会長も務めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・危険を伴う場合は4点柵を使用する事あり。同意書、検討委員会もあり。玄関の施錠はなし。	身体拘束防止に関する会議を定期的開催し、運営推進会議でも報告しています。虐待や身体拘束に関する研修も実施しています。現在、緊急やむを得ず、3要件のっとり身体拘束のケースがあります。毎月、緊急やむを得ない身体拘束に関する経過観察と再検討を行い記録に残しています。玄関は施錠せず、閉塞感を感じないようにしています。管理者は職員の話をしっかり聞くことで、ストレスへの配慮も心がけています。	緊急やむを得ず身体拘束の、ケースがありますが、引き続き解除に向けての取り組みが期待されます。また、身体拘束によるストレスも予想されますので、フロアではより穏やかに安心してすごしてもらう対応も期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・月一回のユニット会議で不適切な言葉掛け等ないかも確認。毎日のケアの中でも注意すべき事を確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在3名の利用者様が成年後見人制度を利用しており、学ぶ機会あり、また常に後見人制度と連携をとって支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・見学から入所、入所時も含め常に利用者様家族様の立場に立ち、助言を行い理解を頂いている。入所前に自宅に出向く事もある。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・敷居をグーンと低くして、どんな事でも話しやすい空気を作っている。家族様とラインが繋がっており、情報を発信し意見を頂いている。	現在、家族の面会は居室で行っています。これまではコロナの状況を見ながら、玄関のガラス越しでの面会でした。LINE(コミュニケーションアプリ)や生活状況報告書で家族に利用者の様子を伝えています。長いコロナ禍で「改めて家族との絆の大切さを学んだ」と管理者は語ります。また、家族の理解と協力にも感謝しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・年に一回か二回会社の全体会議有り。その時々管理者との面談もあり。その中で意見等を聞いている。	毎月のユニット会議で意見を出し合い、サービスの向上に繋がっています。また、利用者一人ひとりのカンファレンスも行っています。管理者は「スタッフが自分の仕事に誇りをもてるケアがうちの自慢」と職員の頑張りを労っています。管理者・職員それぞれがお互いの仕事に敬意を払い感謝しあうチームワークのよい職場環境は、職員の定着に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年に二回(6月11月)に自己評価を行い、その時に自分以外で頑張っているスタッフに投票。代表者はMVP選出し表彰している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・介護福祉士等の資格をとる際には会社がテキストを負担し研修等もやっている。認知症介護のスキルアップの為の個別面談もやっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・管理者は介護者家族の会施設部会、認知症サポーター養成講座など、他の事業所と協力しながら仕事として活動させてもらっている。他のスタッフにも少しずつ参加してもらいたい。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ほぼ出来ている。 ・最初の面談で本人の困っている事、したい事等を聞き取り、サービスの導入支援に繋がっている。		

己	自	部	外	項 目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16				○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ほぼ出来ている。 ・最初の面談時に出来るだけ家族様にも参加して頂き、要望等を聞き取る。参加できない時は後日機会を設ける。		
17				○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ほぼ出来ている。 ・聞き取った要望により、施設内で出来る事、外部へお願いする事を見極め支援している。		
18				○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ほぼ出来ている。 ・本人の残存機能を考慮し出来る事はして頂き、一緒に出来る事は一緒に行う。感謝の言葉を伝える。利用者様から学ぶ事も沢山ある。		
19				○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ほぼ出来ている。 ・コロナ以前は、お花見や敬老会、クリスマス会等家族様にも参加頂き、共に楽しいひと時を過ごしてもらっていました。少しずつ再開しています。		
20	(8)			○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ほぼ出来ている。 ・カット、カラーリングは馴染みの美容室。家族様や友人からの手紙や贈り物については、返事等のサポートを行っている。	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。事務の仕事をしていた利用者が事務所でスタンプ押しをしたり、干し柿や餅つき・おせち作り等、昔取った杵柄を発揮する利用者の生き活きとした表情を見ることができます。	
21				○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ほぼ出来ている。 ・同じテーブル席の方達に洗濯物量みやげーむなどして頂いている。散歩や外出も2人1組で組み合わせを換えたり工夫している。		
22				○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りをさせて頂いた利用者様の家族様の、その後のフォローや相談にも対応。他施設(療養型)に移られても直ぐには関係を打ち切らず関わっている		

己	自	部	外	項 目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>								
23		(9)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ほぼ出来ている。 ・出来るだけ本人の希望を伺って1日を過ぎて頂く。意思疎通の取れない方には、様子を見ながら本人にとって居心地のいい場所となる様対応している。	日々の関わりや家族との話で、利用者の意向の把握に努めています。管理者は「気づく事」の大切さを職員に伝えています。喫煙や晩酌を楽しむ利用者もあり、入居前の習慣を継続する支援も大切にしています。		
24				○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ほぼ出来ている。 ・居室には馴染みの物を置いたり飾ったりしてもらっている。ADLの変化により、それらを見て混乱などがあれば、都度対応し、情報の共有をしている。			
25				○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ほぼ出来ている。 ・食事時にはダイニングで摂り、利用者様によっては食事後居室で横になってもらっている。その日の状態に合わせて支援している。			
26		(10)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ほぼ出来ている。 ・面会時や電話等で事ある毎に連絡し、情報共有と意見を頂く。ユニット会議時に情報の共有と計画の見直しを行っている。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。毎月の会議で利用者一人ひとりのカンファレンスを行い、介護計画に反映させています。計画の見直しは6か月毎に行い、状態に変化があれば随時更新しています。厚生労働省が推進しているLIFE(科学的介護情報システム)を導入し、根拠に基づいた質の高いサービス提供を目指しています。計画作成担当者は「利用者の実情を見ながら、よりよいケアができるように」と心がけて計画作成にあたっています。		
27				○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ほぼ出来ている。 ・個別の様子は「生活記録」に記入し、職員間で共有すべき情報については「業務管理日誌」に別記している。「ひやりほっと」や「ひやりほっと」も利用している。			
28				○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ほぼ出来ている。 ・買い物や内科、歯科(訪問診療)以外の受診など家族様が対応できない時は代わって対応している。			

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・あまり出来ていない。 ・コロナ過で今年前半は出来なかったが、5類に移ったことで、少しずつ外出支援が出来ている。買い物や食事、お茶等、但し混んでいる所は避けている。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・十分に出来ている。 ・入所時には今までのかかりつけ医からの情報を頂き本人(家族様)	連携医師による訪問診療は月2回ですが、かかりつけ医への受診も可能です。歯科、眼科、皮膚科の往診も可能です。薬局による服薬指導も受けています。2週間の訪問看護利用が終わっても、常駐の看護師(職員)がおり安心です。救急急変時対応マニュアルを作成し利用者のフェースシートも添付しています。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・十分に出来ている。 ・日々、利用者様の状態把握に努め、都度職場内では管理者(准看護師)に報告。連携している病院とも密に連絡を取り合う。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・十分に出来ている。 ・入院時には必ず立ち会い、長期入院とならない様に病院と密に連絡を取り合い、情報交換や相談に努めている。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・十分に出来ている。 ・入所時には終末期からの看取りの指針等もお渡ししてある。重度化した場合、病院、家族様と十分話し合い本人にとっての一番と家族様の希望を優先し、チームで支援に取り組んでいる。	「重度化や看取りにおける指針」を基に看取りケアを行っています。段階に応じて、その都度主治医と相談し、利用者、家族や親族と話し合いを重ねています。本人自筆の「リビングウイル」をホームに託した家族も居ます。「私も(終末期は)あんな風に」との遺族からの言葉も届いています。「好みの音楽が流れ、食べたい時に食べたい物を口に、最期の時を迎える」常に利用者・家族に寄り添い、人生の最期に関われる事を大切にケアに努めたいと管理者は話します。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・ほぼ出来ている。 ・利用者様の急変時のマニュアル有り。実践。その時は管理者(准看護師)が24時間オンコールで動く。昨年5月に救命入門コースにほぼ全員参加している。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ出来ている。</li> <li>・年2回の避難訓練が義務付けられており職員の連携は取れている。地域の方にも緊急連絡網に加入して頂き避難訓練時などにも駆けつけて頂いています。</li> </ul>	防災監理者を設置、「避難訓練計画書」を基に実施、消防署に報告書を提出しています。消防署による設備点検も受けています。緊急時の連絡網を作成し、防災研修も実施しています。ホームの近くに居住する職員も数人居り自発参集することができます。備蓄品3日分を確保、品名、消費期限を明記し、管理しています。法人で確保している備蓄品もあります。	次のステップに向けて期待したい内容  今後、夜間を想定した避難訓練も実施されることが望まれます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ出来ている。</li> <li>・自分や自分の家族が言われると嫌だと思ふ声掛けはしないと、ユニット会議で話し合っている。</li> </ul>	個人のプライバシーや人格を尊重するケアに努め、研修も実施しています。不適切な対応に遭遇した場合、管理者はそれとなく、そしてかつ具体的に助言し、コンプライアンスの意識徹底に努めています。美容院に行く利用者やお化粧をする利用者には見守りながら支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ出来ている。</li> <li>・「…します」ではなく「…しましょうか？」と質問調で声掛けする。「はい」と返事されれば介助を始める。無理強いはない。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ出来ている。</li> <li>・大体の1日の流れはあるが無理強いのではなく、柔軟に対応している。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ出来ている。</li> <li>・お化粧される方には声掛けして、して頂いている。モーニングケア時や入浴後などブラシを渡し、鏡を見てして頂いている。</li> </ul>		



己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)			○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ出来ている。</li> <li>・コロナ過であった為一緒に食事は出来ないが見守り介助しながら会話をし楽しく食事してもらう事を心掛けている。片付けは一緒にしている。</li> </ul>	<p>3食とも委託業者より届き、白飯と汁物は職員が調理します。その日の口腔状態により、一口大に切って提供することもあります。おせち料理は利用者と共に作り、庭での餅つきやバーベキューなどの行事食や月2回の食事会の楽しみもあります。音楽を流したり、会話をしながら日常的に楽しい雰囲気を作り出しています。台所に立つ利用者には食事の準備(手伝い)が継続できるようにサポートしたいと考えています。喫煙所は屋外ですが、ヒーターを設置しています。口腔ケアは毎食後行っています。</p>		
41				○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分に出来ている。</li> <li>・利用者様毎に食事形態、食器など本人に合わせて工夫している。水分摂取が難しい方にはゼリーを作って提供している。</li> </ul>			
42				○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分に出来ている。</li> <li>・口腔ケアは毎食後に必ず全員行っており、義歯装着の方にも声掛けを行い、外して洗浄している。</li> </ul>			
43	(16)			○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ出来ている。</li> <li>・排泄のパターンを把握し、声掛けによりトイレでの排泄に繋げている。</li> </ul>	<p>排泄パターンを把握し、それとなくトイレ誘導をしています。状態が改善しつつある利用者には、自立排泄に向けての支援に努めています。夜間は睡眠の妨げにならないように状態を見ておむつ交換をし、自立排泄の利用者には夜間も誘導をしています。自己導尿の利用者にも、見守ることで支援をしています。</p>		
44				○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ出来ている。</li> <li>・水分量をチェックし、腹部マッサージや運動して頂いたり工夫している。寝たきりの方に対しては状態により適切な下剤を服用してもらっている。</li> </ul>			

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ出来ている。</li> <li>・一応入浴の曜日は決めているが変更は可能。シャワーチェアについてもリフト浴用フラット型チェアなどがあり、利用者様の状態により使い分け安全を心掛けている。</li> </ul>	<p>入浴は週2回ですが、柔軟に対応しています。入浴ができない日や入浴を好まない利用者には、日にちを変えて声掛けをしています。自立度の低い利用者も機械浴で湯船に浸ることができます。家庭的な浴室は、手摺りを設置、床面は滑り止め仕様が施され、安心安全に入浴することができます。ゆず湯や菖蒲湯で季節浴を楽しんでいます。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ出来ている。</li> <li>・座っているだけでも疲れるので、館内を歩いたり体操など体を動かしてもらっている。午後からはその人により30分～2時間程度横になって頂いている。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ出来ている。</li> <li>・薬局の方との良好な関係が保たれており、いつでも質問でき、安心して服薬支援が行えている。スタッフ間でも情報の共有に努めている。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ出来ている。</li> <li>・無理強いすることなく、パズルや脳トレ、テレビでのユーチューブ鑑賞など楽しんで頂き、食事の後片付けや洗濯物干しなど家事を手伝って頂いている。タバコ、アルコールもOKである。</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ出来ている。</li> <li>・家族様と外出されたり、買い物に同行して頂いたり、近くのカフェに出かけたり、ドライブで気分転換をしてもらっている。外部のサービスを利用しているドライブもあり。</li> </ul>	<p>外気浴を兼ねて、毎日ホームの周辺を散歩し下肢筋力の低下予防にも繋げています。近隣の弁天神社や副池に立ち寄ることもあります。車椅子やリクライニング車椅子の利用者も参加しています。家族とお花見や、お好み焼き店、喫茶店にも出かけて楽しんでいます。職員は、利用者の喜ぶ姿を通して、改めて外出の大切さを知ることができます。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ出来ている。</li> <li>・現金を持たれる事は基本ない様にして頂いているが、本氏、家族様の希望もあり少しは持っている方もいる。</li> </ul>		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ほぼ出来ている。 ・電話を希望される方にはして頂いている。手紙を書かれる方には自由に書いて頂き、スタッフの手紙も添える。(状況の説明)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・十分に出来ている。 ・玄関やリビングには季節の飾り物を利用者様と作って飾っている。	リビングは床面から立ち上がる大きな窓からの陽射しが明るいフロアにあります。フロアから庭に出ると山や町の風景が眼下に広がり、夜になればイルミネーションも楽しむことができます。通路や壁には家族が写した写真や手作りの作品が掲げられています。幾つもの長いソファが用意され、利用者同志や時には職員との語らいの場となり、思い思いにくつろげる空間になっています。消毒チェックリストを作成し清潔保持に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・十分に出来ている。 ・独立したフリールームあり、廊下の所々にソファを配置し、1人になりたい時等に使っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ほぼ出来ている。 ・子供や孫の写真・自分の若い頃の写真を飾ったりテレビを観たり、ラジオを聴いたりして頂いている。自身が描いた絵画を飾っておられる方もいらっしゃいます。	大きく表示された表札の横には季節ごとに手作りの飾り物を添え、分かりやすく工夫しています。願い事を書いた短冊を吊るす利用者もいます。ホームでは、ベッドやたんす、エアコンを用意し、利用者は馴染みの物を持ち込んでいます。自作の水彩画や家族の写真を掲げたり、化粧水を持ち込む利用者もいます。利用者の状態により、エアベッドも導入しています。トイレ、洗面台付きの部屋もあり、利用者が安心して過ごせる居室作りとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ほぼ出来ている。 ・トイレの位置等、わかりやすい様に表示し、誘導出来ている。居室の名札も大きく表示しわかりやすくしている。		